

■（１８２）総選挙の費用で被災者の宅地再建が何回できるか

政界はすっかり総選挙モードだ。有権者はどうか。被災地では「なんで今、選挙なのか」と首を傾げる人たちが多し。視察に訪れる政治家に「復興を急いで」と訴え、「がんばります」との答えをもらうやりとりも、どこか単なる儀礼的なあいさつに見えてしまう。

総選挙にかかる費用はいくらかを新聞やテレビがよく報じている。２年前の前回は約７００億円だったので、〇〇に換算すると…、という具合だ。担当している釜石市ではどうなるか見てみた。津波で浸水した４つの住宅地域をかさ上げして区画整理する事業でさえ、総事業費は３００億円に届かない。総選挙費用の半分以下だ。なのに、震災３年８カ月を迎えようとしても、ようやく土を入れ始めたばかりで、被災した人たちに引き渡されるのは１年も２年も先だ。選挙は有権者の声を政治に反映させる重要な場で、その費用は民主主義の必要経費なのだろう。が、「なぜ、いま？」と思う人には納得し難いだろう。

支援者と被災者との交流行事は週末に多い。「１２月１４日に…」と先日も案内をいただいた。でもやはり、ごめんなさい。有権者の意志が示される選挙を優先させます。（山）